

令和3年度 全国学力・学習状況調査
経年変化分析調査

実施結果報告書

令和4年3月

文部科学省

国立教育政策研究所

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査事項	2
(4) 調査実施日	2
(5) 調査対象学校数	2
(6) 問題冊子別集計対象児童生徒数	2
2. 調査の設計と測定尺度の構成	4
(1) 調査の設計	4
(2) 測定尺度の構成	4
(3) 国語、算数・数学における分冊デザイン	5
(4) 英語における分冊デザイン	6
(5) 学力スコアの推定	7
3. 調査デザイン	8
(1) 抽出方法	8
(2) 層の構成方法	8
4. 学力分布に関するIRT分析の結果	9
(1) 結果概要	9
(2) 結果の図表について	9
(3) 小学校国語の学力スコア	11
(4) 小学校算数の学力スコア	13
(5) 中学校国語の学力スコア	15
(6) 中学校数学の学力スコア	17
(7) 中学校英語の学力スコア	19
5. 問題別集計結果	21
(1) 小学校国語	21
(2) 小学校算数	23
(3) 中学校国語	26
(4) 中学校数学	29
(5) 中学校英語	32
6. 各教科の問題例	35

1. 調査の概要

(1) 調査目的

「全国学力・学習状況調査」は、毎年悉皆で実施する調査（以下、「本体調査」という。）及び3年に1度程度実施する「経年変化分析調査」と「保護者に対する調査」（補完調査）で構成されている。

今後の全国学力・学習状況調査の方向性として、令和3年3月の「全国的な学力調査に関する専門家会議」において、①毎年、原則として悉皆で実施している本体調査と、②それを補完する標本調査である「経年変化分析調査」及び「保護者に対する調査」を国が実施すべき主要な調査の「二本柱」として位置付け直し、整理することが提言され、文部科学省では、この方向性を踏まえて、各調査の充実を図っていくこととしている。

このうち、「経年変化分析調査」は、項目反応理論¹（IRT：Item Response Theory）を採用し、抽出により全国的な学力の状況について、経年の変化を把握・分析し、国の教育施策の検証・改善に役立てることを目的としている。

本報告書では、令和3年度経年変化分析調査の結果から、その調査目的に基づき、国全体の学力分布の状況について、経年の変化等を精緻に把握・分析した結果を報告する。

なお、経年変化分析調査は、調査方法としては標本調査法を、問題の出題方法としては重複テスト分冊法²を採用し、平成28年度と令和3年度において実施された。平成25年度は重複テスト分冊法を採用していないため、本報告書では参考情報の位置づけとした。また、英語に関しては令和3年度が初めての実施となるため経年変化に関する分析は行っていない。

(2) 調査対象

文部科学省が調査対象として抽出した、国・公・私立学校（本体調査を実施する学校）の以下の学年の児童生徒

小学校調査：小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校調査：中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

¹ IRTの詳細は「2. 調査の設計と測定尺度の構成」(p. 4)を参照

² 重複テスト分冊法(Item-Matrix Sampling)とは、調査問題全体を複数の冊子に分けて出題する際、冊子それぞれに一部重複する問題を設ける出題方法である。PISA (Programme for International Student Assessment：OECD生徒の学習到達度調査)、TIMSS (Trends in International Mathematics and Science Study：国際数学・理科教育動向調査)、NAEP (The National Assessment of Educational Progress：全米学力調査)等の大規模学力調査で国際的に採用されている手法。

(3) 調査事項

教科に関する調査

小学校調査：国語、算数

中学校調査：国語、数学、英語

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、学習指導要領に準拠する点は本体調査と同様である。ただし、経年変化分析調査は全国的な学力の状況について、経年の変化を把握・分析することを目的としていることから、学習指導要領の改訂によらず、当該教科に関わる能力を中長期的に測定するため、より幅広い内容にわたって継続性のある問題を出題している（原則非公開）。

(4) 調査実施日

令和3年6月1日（火）～6月30日（水）の期間中、対象学校が実施可能な日時

(5) 調査対象学校数

調査対象者の在籍する国・公・私立学校全体から、学校を抽出単位とした層化集落抽出法によって調査対象を抽出した（調査対象の抽出については「3. 調査デザイン」(p. 8)を参照）。

調査は小学校600校（国語300校、算数300校）、中学校749校³（国語250校、数学250校、英語249校）で実施した。

(6) 問題冊子別集計対象児童生徒数

【国語、算数・数学】

問題冊子は、国語、算数・数学の各教科それぞれ13分冊作成した。各学校は、国語又は算数・数学のいずれか1教科を1単位時間（小学校40分・中学校45分）で実施し、また、児童生徒ごとに異なる問題冊子を使用した。

³ 抽出された750校のうち、1校においては休校により調査は実施されなかった。

「4. 学力分布に関するIRT分析の結果」(p. 9)において、集計対象とした問題冊子別の児童生徒数については、以下の通りである。

国語、算数・数学の集計対象児童生徒数

														(人)
国語	分冊1	分冊2	分冊3	分冊4	分冊5	分冊6	分冊7	分冊8	分冊9	分冊10	分冊11	分冊12	分冊13	合計
小学校	1,255	1,249	1,337	1,329	1,238	1,244	1,255	1,242	1,235	1,248	1,230	1,233	1,226	16,321
中学校	1,926	1,948	1,955	1,965	1,944	1,940	1,953	1,951	1,925	1,918	1,923	1,940	1,918	25,206
算数・数学	分冊1	分冊2	分冊3	分冊4	分冊5	分冊6	分冊7	分冊8	分冊9	分冊10	分冊11	分冊12	分冊13	合計
小学校	1,226	1,230	1,312	1,331	1,217	1,228	1,216	1,218	1,225	1,209	1,218	1,230	1,218	16,078
中学校	1,902	1,917	1,954	1,943	1,937	1,955	1,920	1,947	1,940	1,953	1,959	1,922	1,896	25,145

【英語（中学校）】

英語は「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」の4技能について調査した。「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3技能は筆記方式の2分冊、「話すこと」は音声録音方式の2分冊（プログラム）とした。調査時間は、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」に関する問題は45分とし、「話すこと」に関する問題は5分程度で実施した。

「4. 学力分布に関するIRT分析の結果」(p. 9)において、集計対象とした問題冊子別の生徒数については、以下の通りである。

英語の集計対象生徒数

				(人)
英語	分冊1	分冊2	合計	
中学校	11,449	11,497	22,946	

2. 調査の設計と測定尺度の構成

(1) 調査の設計

本調査の問題の出題方法として、国語、算数・数学は平成 28 年度調査より各教科 13 分冊の重複テスト分冊法を採用した。また、英語については令和 3 年度調査が初めての調査であり、共通項目デザインの 2 分冊で実施した。

重複テスト分冊法とは、調査問題全体を複数の冊子に分けて出題する際、冊子それぞれに一部重複する問題を設ける出題方法である。複数の冊子（分冊）にすることで多くの調査問題を出題できるだけでなく、冊子間で重複する問題を用いて I R T による等化を行い、冊子が異なっても比較可能なスコアを算出することができる。

I R T とは、問題の特性（困難度や識別力：項目母数）と各児童生徒の学力（能力）を分けて考える枠組みである。これによって、児童生徒の正答・誤答が、問題の難易度（どの程度簡単なのか難しいのか：困難度）によるのか、問題の質によるのか（測りたい学力をどの程度正確に測ることができているのか：識別力）と、児童生徒の学力によるのかなどを区別して考えることができる。そして、共通する部分（問題や受検者）があれば、異なる冊子、異なる集団、異なる時点で実施した場合でも、その結果を相互に比較できるようになる。なお、本調査においては、I R T モデルのうち、困難度と識別力から学力を推定する 2 母数ロジスティックモデルを採用している。

重複テスト分冊法を採用することで、1 分冊よりも相対的に数多くの問題が出題でき、その出題内容も幅広くなり、国全体の学力の様相が精緻に捉えられるようになる。また、経年の変化を追跡するため、問題は非公開としている。この非公開問題と I R T を用いることで、測定尺度を固定でき、例えば問題の入れ替え等があっても、新しい問題をその尺度上に等化できることから測定尺度をそのまま継続して利用できるなどのメリットがある。

さらに児童生徒集団は標本調査法に基づいて抽出されているため、得られた知見の全国母集団への一般化を合理的に行うことが可能である。なお、抽出の詳細については「3. 調査デザイン」(p. 8) で記載する。

(2) 測定尺度の構成

本調査では、I R T に基づき、平成 25 年度及び平成 28 年度調査の実施データから、すべての項目（問題）の項目母数（困難度や識別力）を平成 28 年度基準の測定尺度上に等化し（測定尺度の構成：尺度の原点は 0、単位は 1）、この尺度に基づいて令和 3 年度調査の学力の測定を行った。このことにより、もし学力分布に何らかの変化があれば、平成 28 年度の学力分布を基準とした変化であると判断できる。

なお、令和3年度新出の問題もあるが、調査実施後、あらためて新出問題を平成28年度尺度上に等化した。具体的にはIRT分析ソフトにEasyEstimation2.1.6を利用し、平成28年度既出の項目母数を固定した上で、新出問題の項目母数を推定した。

(3) 国語、算数・数学における分冊デザイン

国語、算数・数学については13分冊の重複テスト分冊法を採用した。同一問題を長期間にわたり使用するため、調査問題は非公開とし、調査実施後、問題冊子はすべて回収した。例として公表した問題⁴については、次回以降の調査においては除外することとする。

国語、算数・数学における分冊デザインについては、以下の表のとおりとしている。表中の番号は、ユニット番号を表している。ユニットは3～5問の項目(問題)のまとまりで、分冊はいくつかのユニットを組み合わせで作成されている。位置は冊子内にユニットが配置される順番を表している。

分冊デザイン

		分 冊 番 号												
		分冊1	分冊2	分冊3	分冊4	分冊5	分冊6	分冊7	分冊8	分冊9	分冊10	分冊11	分冊12	分冊13
分冊内の位置	1番目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	2番目	2	3	4	10	6	13	12	9	1	11	5	8	7
	3番目	4	10	11	5	7	12	9	2	3	6	13	1	8
	4番目	7	12	8	9	3	4	11	6	13	1	2	5	10

※表中の数字はユニット番号を表す

⁴ 公表した問題は、「6. 各教科の問題例」(p.35~47)参照

また、各分冊の配付については、小学校、中学校とも下記の要領で、分冊毎の学校、学級、児童生徒数の偏りがないように配付した。

実際の配付例

○A学校（2学級、1学級あたりの人数21人）

クラス1：分冊1、分冊2、…、分冊13、分冊1、分冊2、…、分冊8

クラス2：分冊9、分冊10、…、分冊13、分冊1、分冊2、…、分冊13、分冊1、分冊2、分冊3

○B学校（3学級、1学級あたりの人数30人）

クラス1：分冊4、分冊5、…、分冊13、分冊1、…、分冊13、分冊1、…、分冊7

クラス2：分冊8、分冊9、…、分冊13、分冊1、…、分冊13、分冊1、…、分冊11

クラス3：分冊12、分冊13、分冊1、…、分冊13、分冊1、…、分冊13、分冊1、分冊2

※以下、抽出校数分、繰り返し

（4）英語における分冊デザイン

英語については、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」の4技能での調査を実施した。

解答方式は、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」は筆記方式、「話すこと」調査はPC・タブレット等のICT機器を活用した音声録音方式で実施した。

共通項目（アンカー項目）を用いたデザインの基本的な考え方

グループ	項目群 X	項目群 A	項目群 Y
P ₁	○	●	
P ₂		●	○

英語における分冊デザインについては、同一母集団（P）から抽出された2つのグループ（P₁、P₂）に対して、互いに共通項目（アンカー項目：表中の項目群 A）が含まれる2つ

3. 調査デザイン

(1) 抽出方法

学校を抽出単位とした層化集落抽出法によって選ばれた以下の学校数を対象とした。

小学校 600 校： 国語、算数それぞれ 300 校（抽出率：3.1%）

中学校 750 校： 国語、数学、英語それぞれ 250 校（抽出率：7.5%）

※ 抽出率は平成 31（令和元）年度全国学力・学習状況調査の調査結果を基に算出している。

各層への学校数の割当は母集団学校数による比例割当とし、層内での学校の抽出は、1 番目は無作為に、そして 2 番目以降は通し番号に従って一定間隔で抽出を行う系統抽出法により抽出した。

(2) 層の構成方法

層を構成するための変数は以下の 3 変数とした。

都市規模： 学校の所在地の都市規模

指定都市、中核市、人口 10 万以上、人口 10 万未満の 4 区分とした。

学校規模： 調査対象学年の学級数による学校規模

小学校では 2 学級未満（小）、2 学級（中）、3 学級以上（大）の 3 区分とした。

中学校では 4 学級未満（小）、4～5 学級（中）、6 学級以上（大）の 3 区分とした。

学力層： 平成 31（令和元）年度全国学力・学習状況調査結果に基づく学力層

小学校は国語と算数の学校別平均正答率を合計し、四分位数で平均正答率の合計が大きい方から A 層、B 層、C 層、D 層の 4 区分とした。

中学校は国語と数学と英語の学校別平均正答率を合計し、四分位数で平均正答率の合計が大きい方から A 層、B 層、C 層、D 層の 4 区分とした。

4. 学力分布に関するIRT分析の結果

(1) 結果概要

学力分布の状況は、各問題の特性（困難度や識別力：項目母数）の推定値を用いて、最尤推定法によって求めた値を平均が500、標準偏差が100となるように線形変換した学力スコア分布で示した。

国語及び算数・数学の平成25年度、平成28年度、令和3年度調査の学力スコアの結果等は図1～12、表1～8のとおりである。ただし、平成25年度は各教科において異なる問題で構成された2冊子で実施したため参考程度にとどめ、平成28年度の学力スコア分布を基準に令和3年度の変化の有無をみる必要がある。

また、PISA等の国際学力調査の知見を踏まえ、本調査においても全国の学力分布の状況に関する変化の有無は中長期的な観点から継続して分析を行っていく必要がある。

平成28年度と令和3年度の調査結果を分析すると、小学校・中学校ともに国語に関しては、学力スコア分布（累積相対度数分布）の状況は両年度間でほとんど変化は観察されなかった。換言すれば、国全体としてみれば、児童生徒の学力の低下や向上といった変化は認められなかった。

算数・数学については、令和3年度の学力スコア分布（累積相対度数分布）が、基準である平成28年度の学力スコア分布の右側に（全体的にみて学力スコアが高い方へ）若干移動していることが観察できる。これについては、国全体でみれば、算数・数学について若干学力が向上しているとも解釈しうるが、上記のとおり、全国の学力分布の状況に関する変化の有無は中長期的に継続して分析する必要があることを踏まえ、次回（令和6年度予定）以降の結果もあわせて引き続き分析していくこととする。

中学校英語については、令和3年度調査の学力スコアの結果等は図13～15、表9、10のとおりであるが、令和3年度が初めての調査であるため、今回は経年比較はできない。

(2) 結果の図表について

学力スコアはIRTに基づく最尤推定法により平成25年度、平成28年度、令和3年度の子童・生徒の学力を推定して得られたものである。

項目母数（困難度、識別力）を基に推定した学力推定値を平均500、標準偏差100となるように線形変換したものを学力スコアとした。また、平成28年度の経年変化分析調査を基準に推定を行った。

結果については図表を作成し、図は学力スコア相対度数分布図、学力スコア累積相対度数分布図、箱ひげ図で表した。

① 学力スコアの標本統計量

学力スコアの標本統計量としては、児童生徒数、平均、標準偏差、25 パーセンタイル、中央値、75 パーセンタイルを記載した。

「パーセンタイル」とは、最小値から何パーセントの位置にあるかを示すもので、25 パーセンタイルは最小値から 25 パーセントの位置、75 パーセンタイルは最小値から 75 パーセントの位置にある学力スコアの値である。中央値はちょうど真ん中に位置する値のことで、50 パーセンタイルの値と同じである。

② 相対度数分布・累積相対度数分布

相対度数分布・累積相対度数分布ともに、横軸は学力スコアを表しており、目盛りは 10 刻みとした。

相対度数分布の縦軸は相対度数を表しており、全体を 1 としたときの各学力スコアに属する人数の割合が示されている。累積相対度数分布の縦軸は累積相対度数を表しており、横軸の学力スコアの層が高い方へいくに従って、各層の相対度数が加算されて示されている。

③ 箱ひげ図

箱の上辺：第 3 四分位数

箱の下辺：第 1 四分位数

ひげの上端：「第 3 四分位数 + 1.5 × 箱の長さ」よりも低い学力スコアの中での最大値

ひげの下端：「第 1 四分位数 - 1.5 × 箱の長さ」よりも高い学力スコアの中での最小値

ひげの端を超える値：外れ値であり、記載を省略

(3) 小学校国語の学カスコア

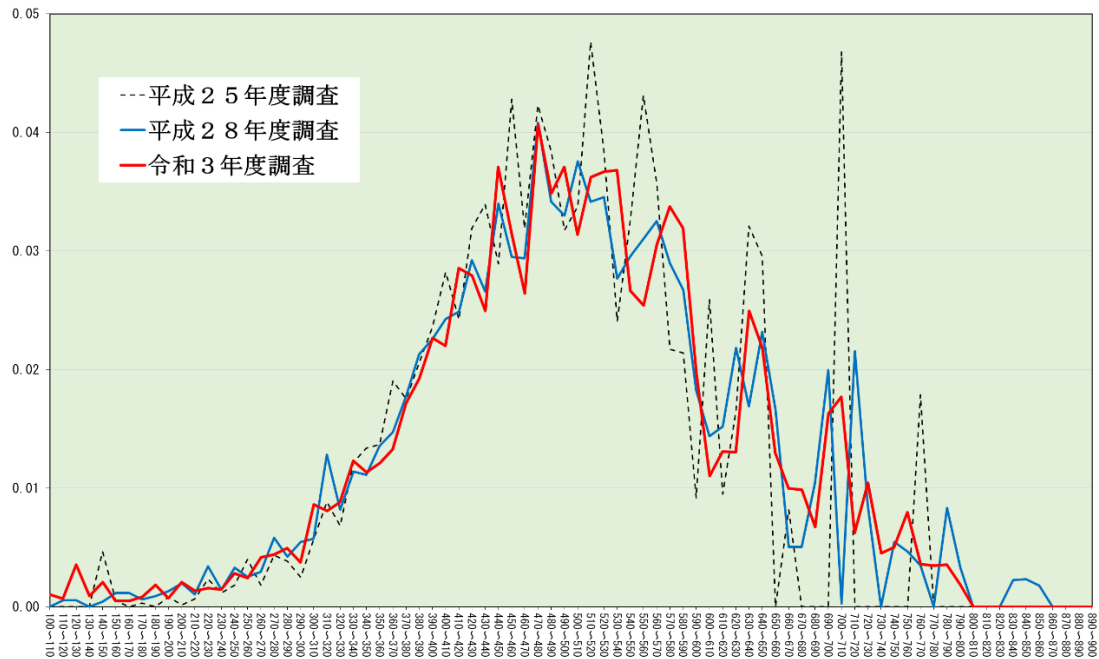


図1 学カスコア（相対度数分布）

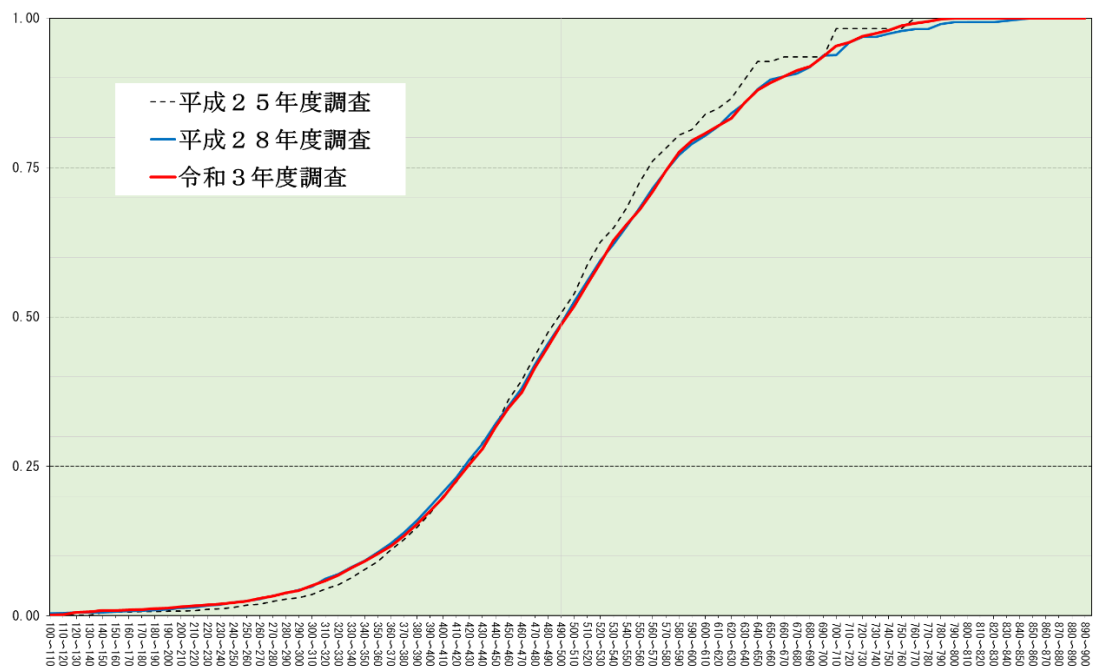


図2 学カスコア（累積相対度数分布）

表 1

実施年度	国語（学力スコアの標本統計量）					
	児童数	平均	標準偏差	25パーセンタイル	中央値	75パーセンタイル
平成25年度	5,984	500.3	110.3	427.9	498.6	567.5
平成28年度	11,122	505.8	123.7	426.1	503.4	582.0
令和3年度	16,321	505.8	120.8	428.4	504.3	581.8

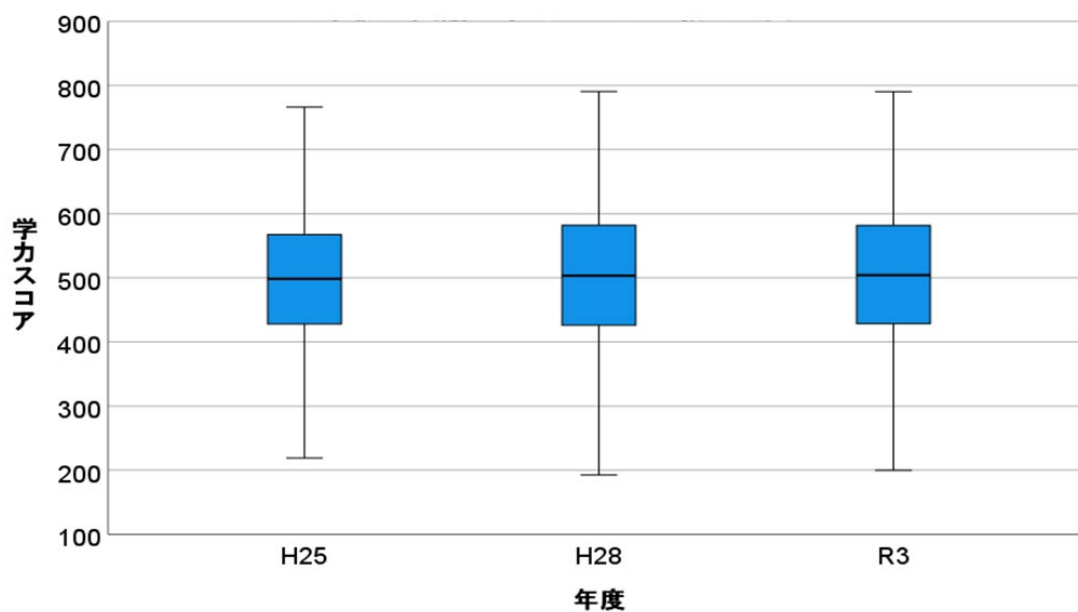


図 3 学カスコア（箱ひげ図）

表 2

	平成25年度	平成28年度	令和3年度
ひげの上端	766.3	790.5	790.3
箱の上辺	567.5	582.0	581.8
中央値	498.6	503.4	504.3
箱の下辺	427.9	426.1	428.4
ひげの下端	219.0	192.7	200.0

(児童数) 5,984人 11,122人 16,321人

(4) 小学校算数の学カスコア

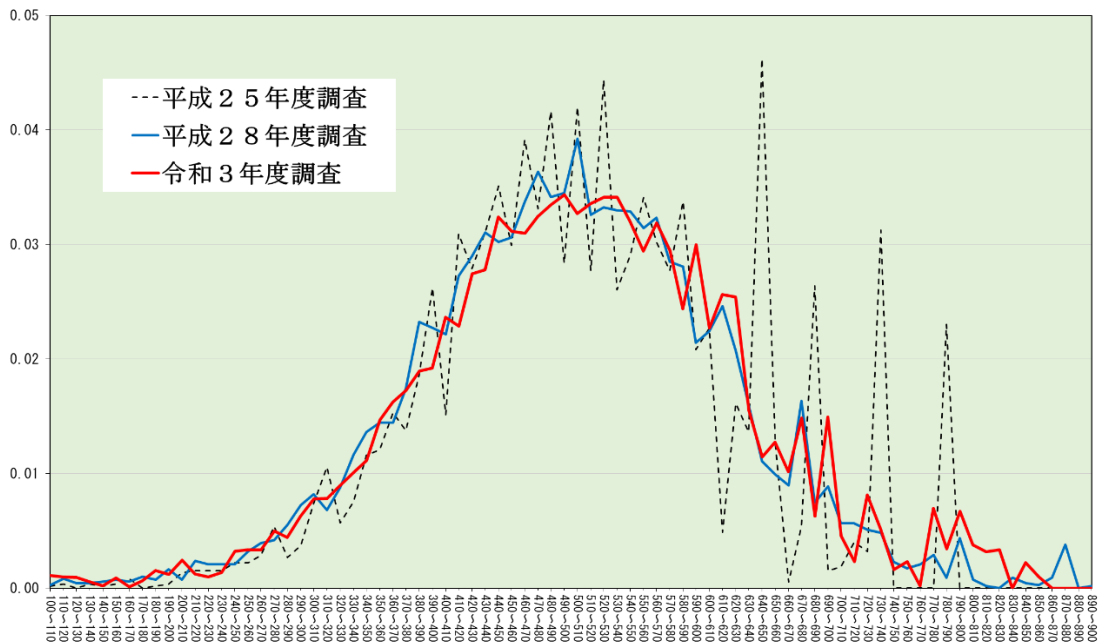


図4 学カスコア（相対度数分布）

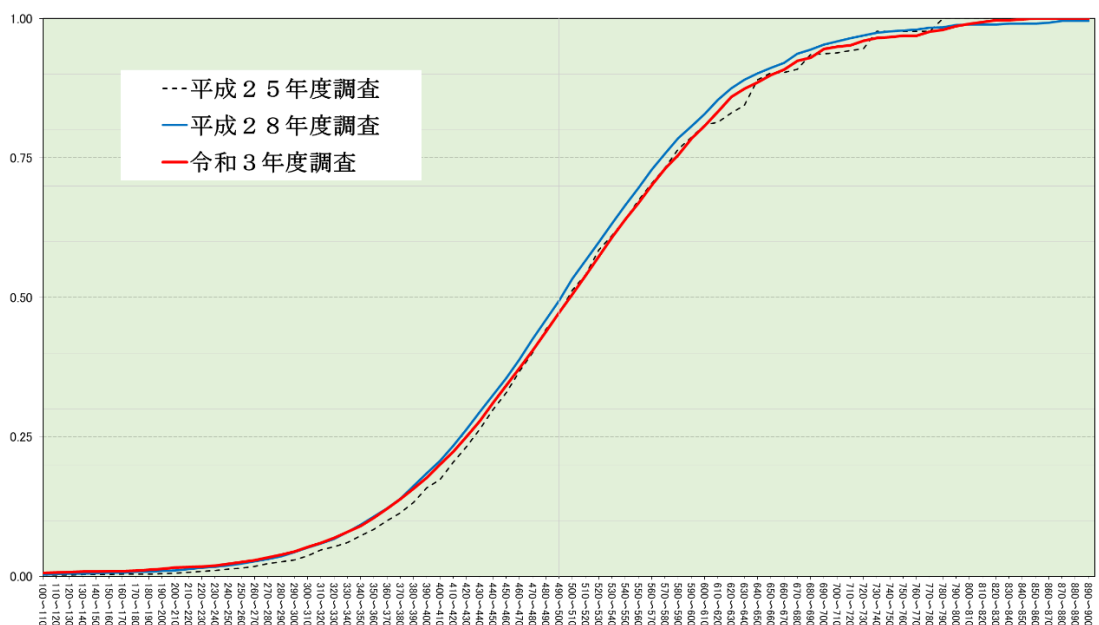


図5 学カスコア（累積相対度数分布）

表 3

実施年度	算数（学カスコアの標本統計量）					
	児童数	平均	標準偏差	25パーセンタイル	中央値	75パーセンタイル
平成25年度	5,952	512.0	117.3	436.3	506.4	586.0
平成28年度	11,009	502.0	122.3	425.7	501.7	577.6
令和3年度	16,078	507.2	126.0	429.6	508.1	587.5

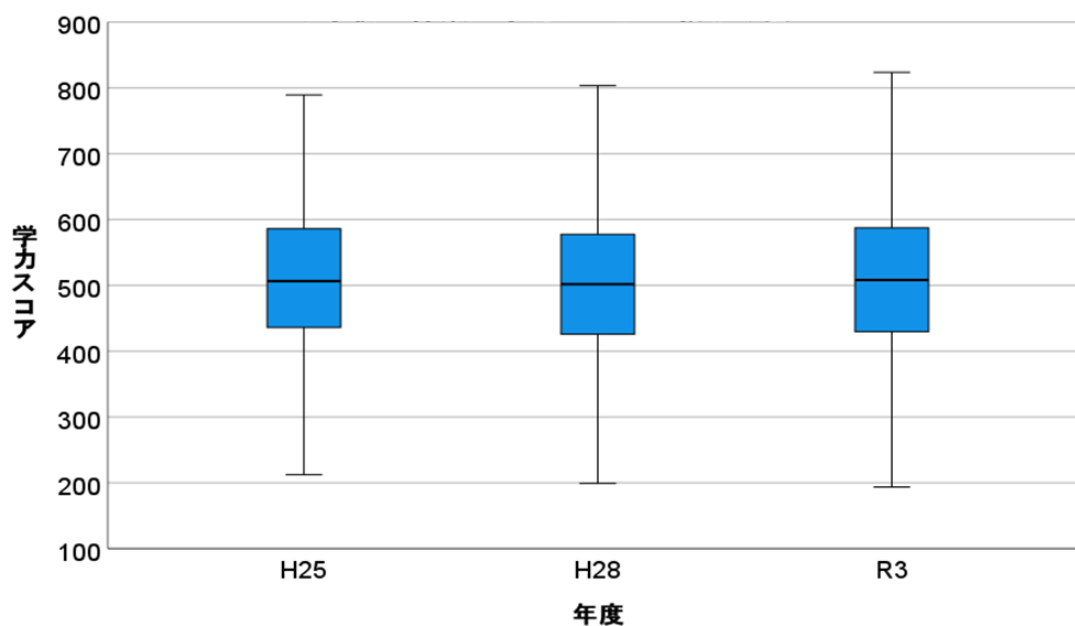


図 6 学カスコア（箱ひげ図）

表 4

	平成25年度	平成28年度	令和3年度
ひげの上端	789.3	803.6	823.6
箱の上辺	586.0	577.6	587.5
中央値	506.4	501.7	508.1
箱の下辺	436.2	425.7	429.6
ひげの下端	212.5	199.1	193.8
(児童数)	5,952人	11,009人	16,078人

(5) 中学校国語の学力スコア

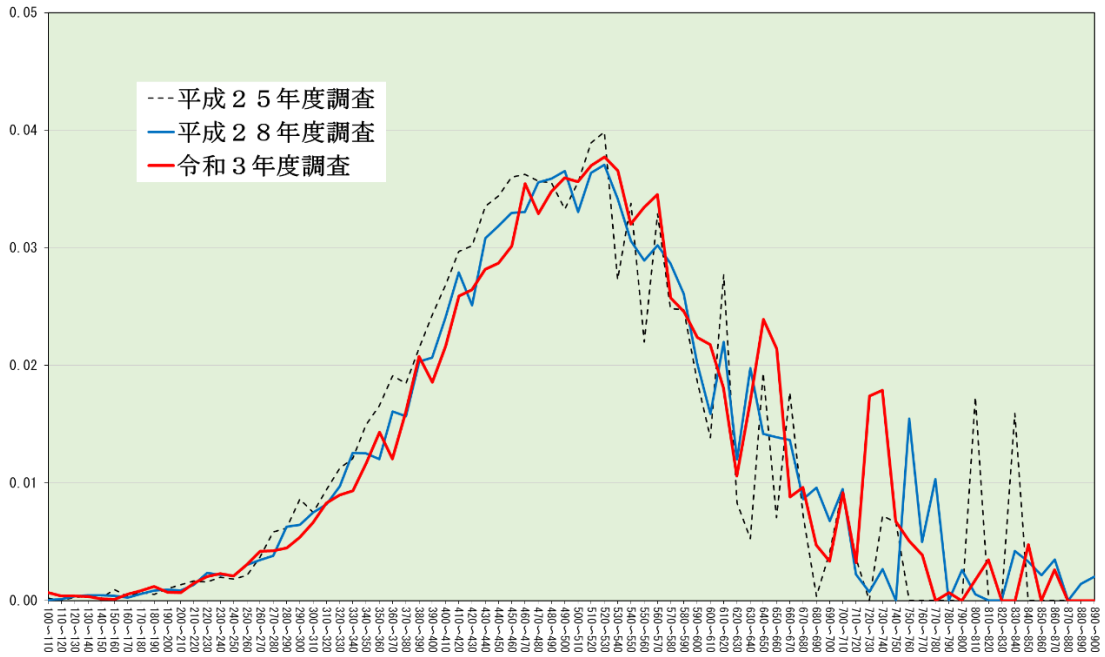


図7 学力スコア（相対度数分布）

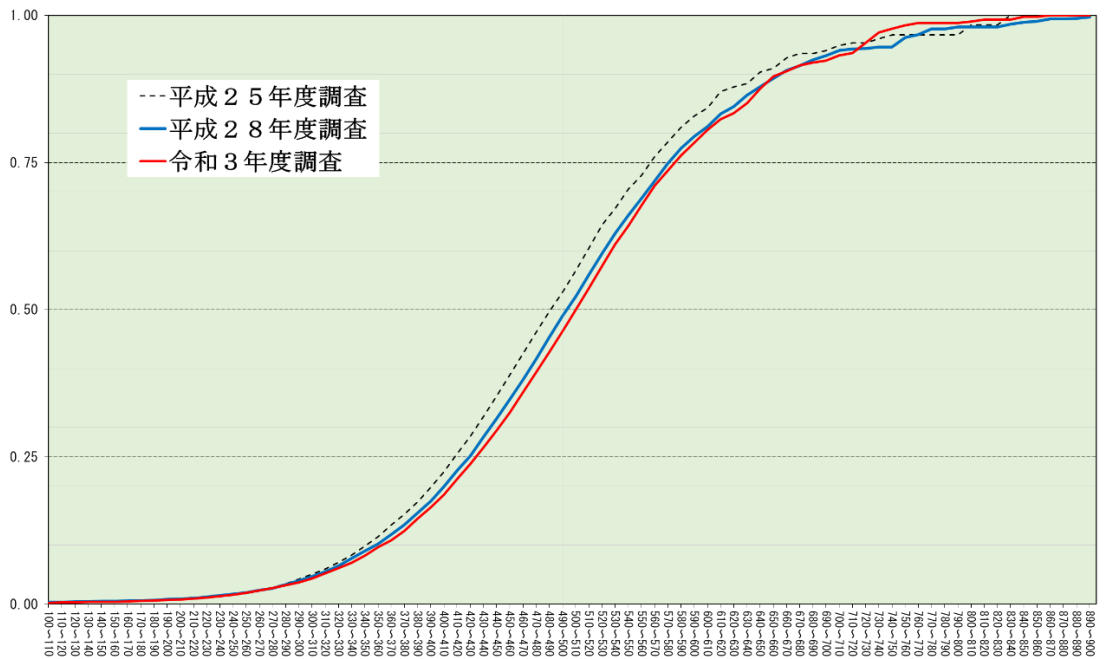


図8 学力スコア（累積相対度数分布）

表 5

実施年度	国語（学カスコアの標本統計量）					
	生徒数	平均	標準偏差	25パーセンタイル	中央値	75パーセンタイル
平成25年度	12,491	496.1	124.0	418.0	490.7	565.2
平成28年度	27,029	508.6	128.0	429.0	503.5	580.7
令和3年度	25,206	511.7	121.3	434.6	510.0	585.3

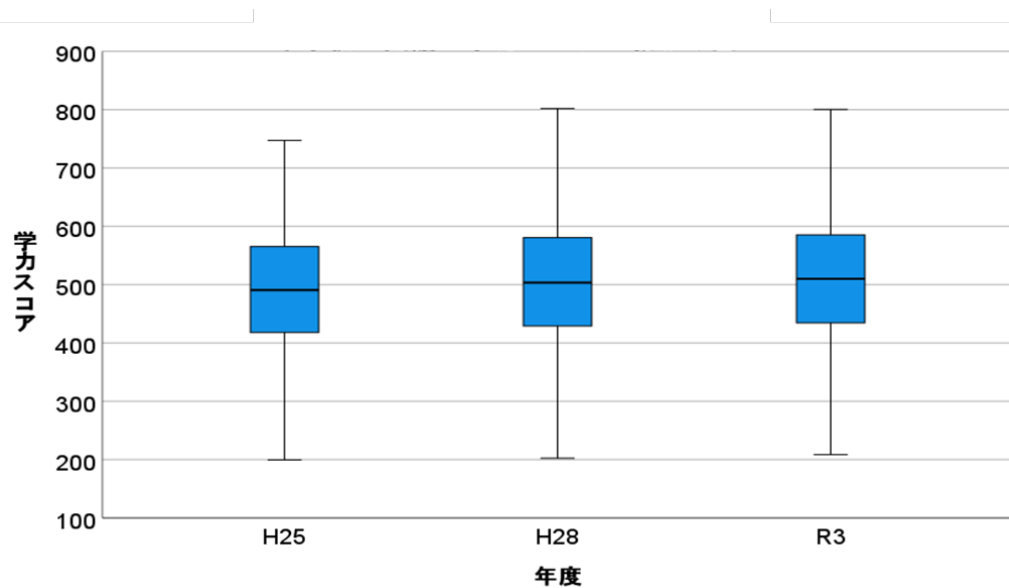


図 9 学カスコア（箱ひげ図）

表 6

	平成25年度	平成28年度	令和3年度
ひげの上端	747.3	802.1	800.4
箱の上辺	565.2	580.7	585.3
中央値	490.7	503.5	510.0
箱の下辺	418.0	429.0	434.6
ひげの下端	199.7	202.4	208.6

(生徒数) 12,491人 27,029人 25,206人

(6) 中学校数学の学力スコア

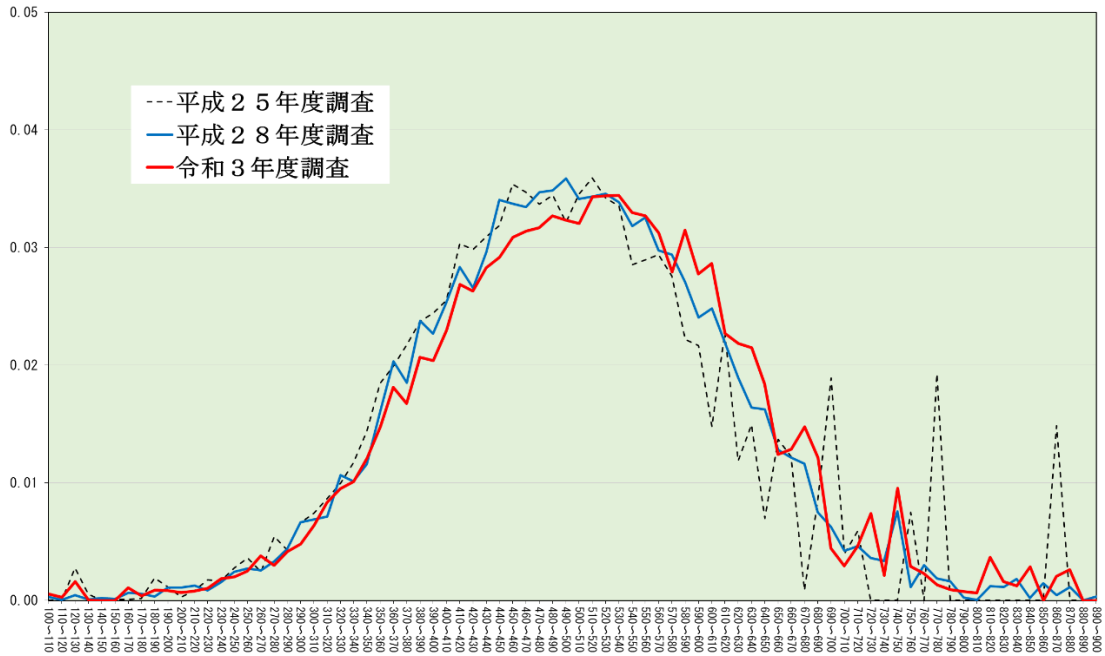


図 10 学力スコア（相対度数分布）

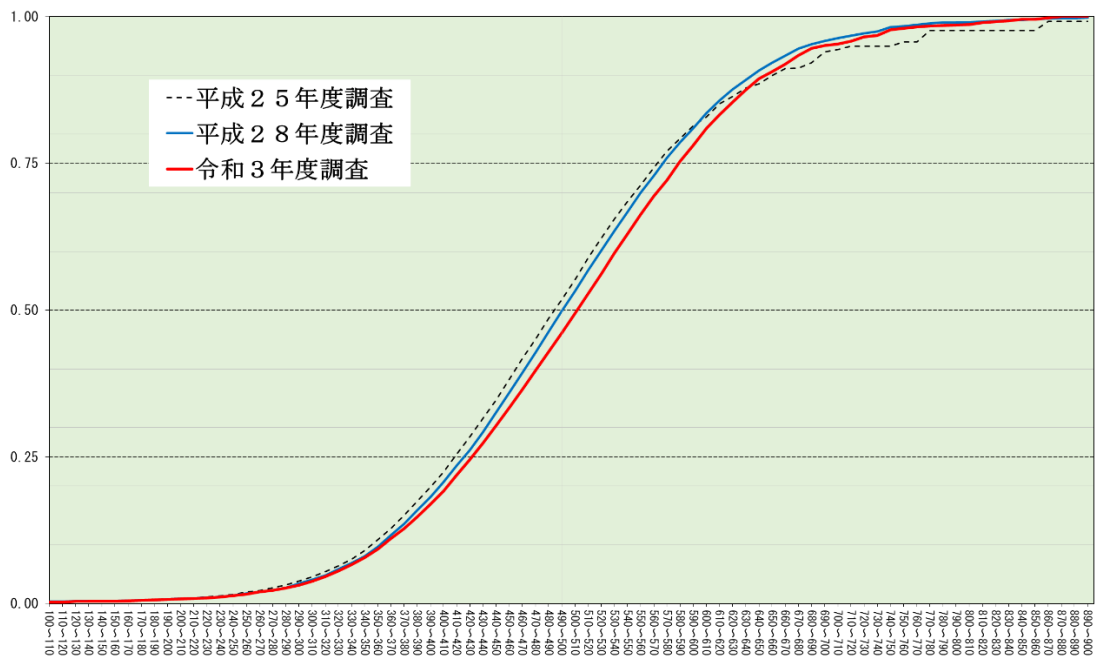


図 11 学力スコア（累積相対度数分布）

表 7

実施年度	数学（学カスコアの標本統計量）					
	生徒数	平均	標準偏差	25パーセンタイル	中央値	75パーセンタイル
(参考) 平成25年度	13,059	503.1	131.7	418.5	494.5	571.5
平成28年度	26,493	502.0	116.6	425.6	500.3	576.3
令和3年度	25,145	511.0	118.2	431.8	512.1	588.9

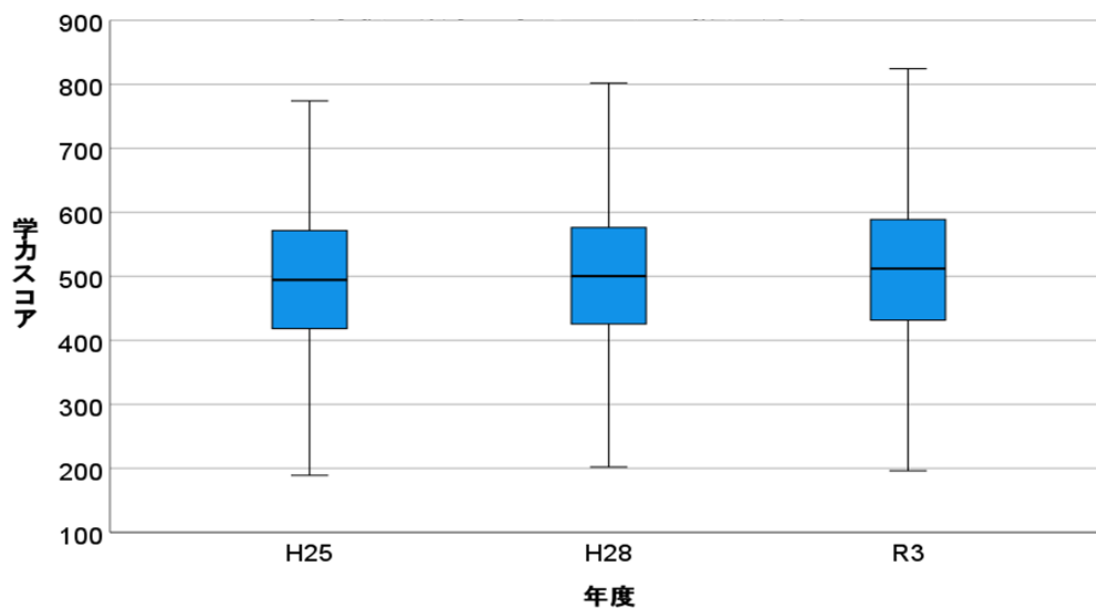


図 12 学カスコア（箱ひげ図）

表 8

	平成25年度	平成28年度	令和3年度
ひげの上端	774.1	802.1	824.4
箱の上辺	571.5	576.3	588.9
中央値	494.5	500.3	512.1
箱の下辺	418.5	425.6	431.8
ひげの下端	189.2	202.3	196.3

(生徒数) 13,059人 26,493人 25,145人

(7) 中学校英語の学カスコア



図 13 学カスコア（相対度数分布）

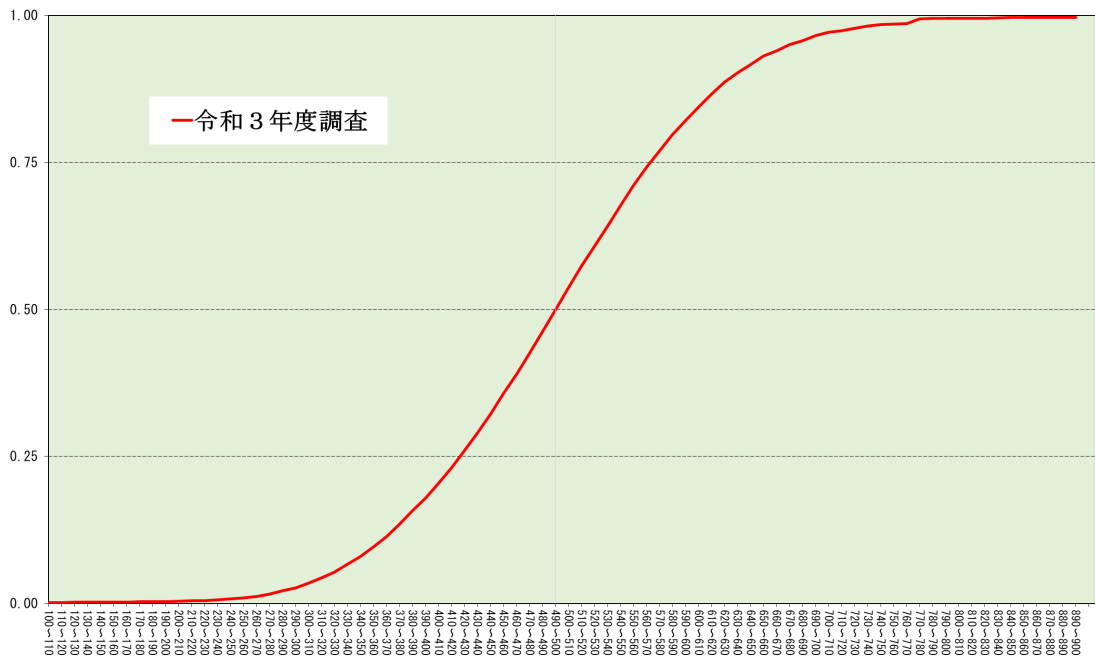


図 14 学カスコア（累積相対度数分布）

表 9

実施年度	英語（学カスコアの標本統計量）					
	生徒数	平均	標準偏差	25パーセンタイル	中央値	75パーセンタイル
令和3年度	22,946	501.1	110.2	426.9	500.0	572.7

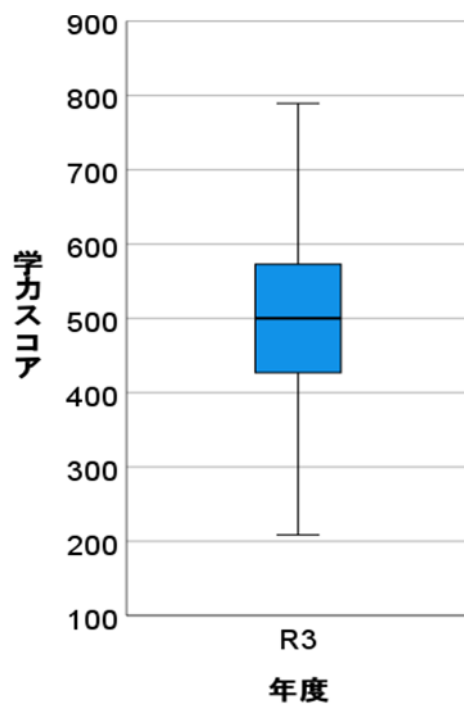


図 15 学カスコア（箱ひげ図）

表 10

	令和3年度
ひげの上端	789.4
箱の上辺	572.7
中央値	500.0
箱の下辺	426.9
ひげの下端	208.4

（生徒数） 22,946人

5. 問題別集計結果

(1) 小学校国語

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
1	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む		○		86.1	—	—	1.6	—	—
2			○		89.3	—	—	2.0	—	—
3			○		86.9	—	—	2.6	—	—
4			○		94.4	92.8	92.7	0.8	0.9	0.9
5	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く		○		77.8	—	—	5.9	—	—
6			○		75.3	75.9	82.3	2.9	2.3	2.7
7			○		81.6	—	—	1.8	—	—
8			○		73.0	73.1	76.7	4.3	4.0	4.7
9	類義語を正しく理解する	○			74.0	72.2	68.1	0.7	0.8	0.3
10	対義語を正しく理解する	○			63.8	61.4	58.5	0.8	0.9	0.5
11	文の意味のつながりを考えながら、一文にして書く		○		78.9	83.0	86.9	1.5	1.7	0.7
12	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って二文に分けて書く		○		60.5	57.8	64.5	1.8	1.9	1.0
13	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って書き直す		○		64.1	62.7	—	1.9	1.4	—
14	文と文との意味のつながりを考えながら、接続関係を整えて書く	○			52.6	52.1	54.3	0.2	0.5	0.2
15	目的や意図に応じて、段落の内容を捉える		○		71.5	67.9	64.6	5.7	6.0	8.1
16			○		75.7	73.7	74.6	0.9	1.2	0.5
17	俳句の情景を捉える	○			65.8	63.2	—	1.1	1.4	—
18			○		65.4	63.8	—	2.2	2.2	—
19	目的に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う		○		80.5	80.7	—	1.5	1.1	—
20			○		79.9	82.0	—	1.3	1.2	—
21	主体的に考えながら話を聞く	○			84.7	82.9	84.5	1.2	0.9	0.2

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
2 2	目的に応じて、資料から分かったことを書く		○		58.3	—	—	3.3	—	—
2 3	目的に応じて、中心となる語や文を捉える		○		80.4	78.6	—	1.7	1.7	—
2 4	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、要旨を捉える	○			60.1	57.2	59.1	0.8	1.0	0.4
2 5	話し手の立場や意図を捉えて聞く	○			83.0	82.0	84.9	1.4	1.1	0.8
2 6	立場や意図を明確にして話す			○	37.4	35.3	35.9	7.0	7.7	7.4
2 7	伝えたいことと資料とを関係付け、資料を効果的に提示して話す	○			90.0	88.8	—	2.1	1.9	—
2 8	話の中心や話し手の意図を捉え、自分の意見を述べる			○	39.3	47.6	—	7.6	7.9	—
2 9	文章から分かったことを整理して書く			○	46.4	42.1	—	4.4	4.3	—
3 0	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえる		○		38.3	35.6	—	7.1	8.0	—
3 1	目的や意図に応じて、必要な内容を適切に書き加える	○			54.0	55.6	—	3.5	2.8	—
3 2	目的や意図に応じて、内容を整理して自分の考えを書く			○	37.2	35.8	—	9.1	11.8	—
3 3	文章全体の構成を捉える	○			42.0	35.3	—	0.9	1.2	—
3 4	文章全体の構成を捉えて、自分の考えを書く			○	57.9	51.6	—	6.0	7.8	—
3 5	目的に応じて、必要な情報を取り出し、効果的に書く		○		38.5	45.2	40.8	1.4	2.0	2.0
3 6				○	65.8	66.7	66.4	3.3	4.6	5.2
3 7	目的に応じて、文章の内容を適切に捉える		○		57.4	57.1	57.8	6.8	6.6	6.6
3 8	目的に応じて、複数の情報を関係付けながら文章の内容を適切に捉える			○	23.4	22.3	19.1	5.8	6.0	4.8
3 9	目的に応じて、文章の内容を適切に捉える		○		48.2	51.4	50.6	9.6	10.0	7.7

(2) 小学校算数

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
1	繰り下がりのある減法(3位数) - (2位数)の計算をすることができる		○		85.8	—	—	1.0	—	—
2	末尾の位のそろっていない(小数) + (小数)の計算をすることができる		○		77.4	—	—	0.9	—	—
3	(整数) ÷ (整数)で商が小数になる計算をすることができる		○		91.0	91.4	92.1	1.3	1.2	0.9
4	(整数) × (小数)の計算をすることができる		○		80.2	—	—	1.3	—	—
5	異分母の分数の加法の計算をすることができる		○		71.5	72.5	76.4	2.0	1.8	1.2
6	(小数) ÷ (整数)の計算をすることができる		○		77.2	—	—	3.0	—	—
7	()を用いた整数の計算をすることができる		○		89.2	—	—	2.0	—	—
8	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる		○		72.8	—	—	1.7	—	—
9	基準量よりも比較量の方が大きい場面で、何倍かを求めるために除法が用いられることを理解している		○		90.2	—	—	0.9	—	—
10	基準量よりも比較量の方が小さい場面で、何倍かを求めるために除法が用いられることを理解している		○		69.2	—	—	1.2	—	—
11	乗数、除数が1より小さいとき、被乗数と積の大きさ、被除数と商の大きさの関係について理解している	○			60.7	—	—	1.9	—	—
12	平均の意味を理解し、正しく求めることができる		○		83.5	84.7	—	1.0	1.1	—
13	三角形の面積を求めることができる底辺と高さを理解している		○		35.3	33.5	—	4.2	5.2	—
14	量の大きさを測定する場面において、計器の目盛りを読み取り、重さを求めることができる		○		23.7	19.7	21.8	1.6	2.0	2.1
15	三角形、平行四辺形の面積の底辺と高さの長さの関係を理解している		○		67.4	67.7	71.0	4.6	5.5	3.9
16	長さについての感覚を身に付けている	○			78.8	—	—	0.6	—	—
17	台形の面積の求め方を理解し、面積を求めることができる		○		61.7	67.7	—	2.0	1.6	—
18	基本的な平面図形の定義や性質について理解している	○			73.5	73.4	74.9	1.0	0.8	0.7
19	立体図形の辺と面の垂直の関係を理解している	○			76.9	—	—	1.1	—	—
20	多角形の角の大きさの和の求め方を考えることができる	○			70.0	68.0	70.4	0.7	0.9	0.3
21	示された図形の分割の仕方に基づいた多角形の角の大きさの和の求め方を考えることができる	○			60.2	56.8	58.2	1.1	1.3	0.8

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
2 2	形が変化した場面における多角形の角の大きさの和について考えることができる	○			50.6	47.2	50.9	0.9	1.1	0.5
2 3	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺の長さを捉えることができる		○		92.1	92.0	—	1.0	0.9	—
2 4	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面のつながりや位置関係について理解している		○		80.2	79.2	—	0.8	0.7	—
2 5	二つの数量の関係を、表に表すことができる		○		97.4	—	—	0.8	—	—
2 6	二つの数量の関係を□や△を用いて式に表すことができる		○		58.5	55.6	49.2	2.6	2.8	2.4
2 7	円グラフを読み取ることができる		○		92.4	91.2	92.7	1.4	0.9	0.6
2 8	百分率の意味について理解している		○		51.3	47.6	53.2	4.1	4.6	4.8
2 9	示された場面から計算の結果の見通しをもち、(3位数)÷(2位数)の筆算をすることができる		○		93.3	—	—	1.9	—	—
3 0	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる			○	74.3	—	—	4.3	—	—
3 1	十の位を切り上げて百の位までのおよその数にすることができる		○		69.6	—	—	1.8	—	—
3 2	概数を用いた見積りの結果とそれに基づく事柄を理解し、1000円では足りなかった理由を記述できる			○	34.3	37.5	—	5.6	5.2	—
3 3	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる		○		55.3	52.5	—	1.7	2.3	—
3 4	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる			○	15.2	20.0	—	1.5	2.6	—
3 5	与えられた条件に合う時刻を、筋道を立てて考え、時刻表から選択することができる		○		50.4	50.8	—	5.0	5.7	—
3 6	単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の大小を判断し、その理由を記述できる			○	48.4	41.9	—	2.4	3.1	—
3 7	示された面積の求め方を基に、発展的な場面の面積の求め方を式に表すことができる		○		51.4	52.9	54.8	3.4	4.9	7.5
3 8	面積を求める式が正しい理由を、示された求め方を基に記述できる			○	57.6	53.4	41.1	10.6	13.0	13.5
3 9	円の周の長さの求め方を基に、半円の周の長さを求めることができる		○		27.3	19.6	—	7.9	8.7	—
4 0	三角形から四角形に図形を変えて考える発展的な場面で、図形の性質を基に周の長さの関係を捉えることができる			○	29.3	32.7	—	5.1	5.1	—
4 1	立体図形と見取図について、辺や面のつながりや、それらの位置関係を理解している	○			82.0	—	—	1.5	—	—
4 2	示された条件を解釈し、目的に適した立体を構成することができるかどうかを判断して、その理由を記述できる			○	17.4	—	—	2.5	—	—
4 3	合同な図形の性質を理解している	○			70.5	68.5	—	1.2	1.1	—
4 4	示された操作の意味を解釈し、できた図形がひし形であることを、辺の長さに着目して、記述できる			○	28.2	—	—	10.2	—	—

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
45	数量の関係を式に表し、計算することができる		○		84.5	—	—	1.5	—	—
46	与えられた条件に合う求め方を記述できる			○	61.3	59.9	—	7.2	7.1	—
47	基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述できる			○	19.0	—	—	1.3	—	—
48	基準量と比較量の関係を表している図を判断することができる	○			52.4	—	—	1.1	—	—
49	割合が一定の場面で、比較量が最大になるときの基準量を判断し、その理由を記述できる			○	26.9	25.2	22.9	3.0	4.2	2.9
50	示された図と言葉を解釈し、長さを求める式を書くことができる		○		48.3	47.3	53.0	2.7	2.8	4.3
51	示された図形の情報を基に、条件に合う図を選択することができる	○			65.2	66.0	68.3	1.8	1.6	2.5
52	示された条件では、目的の図形をつくることのできない理由を記述できる			○	46.6	47.6	46.5	7.6	7.7	10.7

(3) 中学校国語

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
1	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	○			71.8	70.7	71.2	0.5	0.5	0.7
2	話し合いの内容を整理する		○		79.3	79.2	75.9	2.6	3.5	4.2
3	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する		○		57.7	59.9	—	2.8	3.9	—
4	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	○			85.3	82.5	—	1.1	1.2	—
5	書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする		○		39.6	40.6	—	4.2	4.8	—
6	内容を整理して文章を構成する	○			60.0	—	—	0.6	—	—
7	伝えたい事柄を明確にして書く		○		90.8	—	—	2.0	—	—
8	段落相互の関係を理解し、内容を捉える	○			56.7	—	—	0.4	—	—
9	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	○			44.9	—	—	0.7	—	—
10	文脈の中における語句の意味を正確に理解する		○		84.3	84.7	84.5	2.9	3.8	4.8
11	文章の表現の特徴を捉える	○			60.2	59.1	58.1	0.4	0.7	0.6
12	描写に注意して読み、内容を理解する	○			70.5	—	—	0.4	—	—
13	文脈に即して漢字を正しく書く		○		54.8	44.0	39.8	14.0	20.2	28.7
14			○		69.9	70.5	71.4	5.6	6.7	6.5
15			○		86.2	—	—	2.9	—	—
16			○		77.4	—	—	9.8	—	—
17			○		87.1	87.3	79.7	4.1	4.5	6.5
18			○		76.1	74.3	73.5	6.7	8.3	9.9

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
19	文脈に即して漢字を正しく読む		○		73.0	69.2	66.4	1.7	2.0	4.3
20			○		80.6	80.1	81.0	3.6	4.8	7.4
21			○		61.7	58.9	54.0	1.7	1.7	1.7
22			○		96.7	97.1	97.4	0.9	1.3	0.6
23			○		98.4	—	—	0.8	—	—
24			○		99.3	—	—	0.3	—	—
25	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	○			97.1	—	—	0.6	—	—
26		○			90.9	—	—	0.2	—	—
27		○			93.1	—	—	0.3	—	—
28		○			77.8	63.3	61.2	0.7	0.6	0.5
29		○			93.5	—	—	0.3	—	—
30		○			54.4	53.1	55.3	0.4	0.7	0.6
31	敬語の働きについて理解する	○			93.2	92.6	90.9	0.8	0.6	0.6
32		○			70.6	75.7	77.5	0.4	0.5	0.4
33			○		55.7	52.1	—	2.1	3.2	—
34	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む		○		28.7	—	—	8.6	—	—
35	古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える		○		93.6	—	—	1.7	—	—
36	行書の基礎的な書き方を理解する		○		74.8	—	—	0.7	—	—
37	相手の話を踏まえて話す	○			78.7	73.9	—	0.3	0.5	—
38	相手の発言を注意して聞き、自分の考えを具体的に書く			○	75.6	72.9	—	11.3	14.1	—
39	目的に応じて、効果的に話す		○		73.2	68.8	—	7.1	8.7	—
40	資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明する			○	41.6	35.7	—	6.7	6.8	—
41	事実や事柄が効果的に伝わるように、具体例を加えて書く	○			71.7	68.2	—	0.6	1.0	—

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
4 2	自分の考えが効果的に伝わるように、具体的な表現の技法を捉えて書く			○	41.8	36.1	—	4.7	6.2	—
4 3	文章の表現の特徴を捉える	○			85.1	82.0	79.2	0.6	0.6	2.4
4 4	自分の考えが相手に効果的に伝わるように具体例を入れて書く			○	72.7	75.3	60.4	8.6	10.4	15.1
4 5	複数の資料から必要な情報を読み取り、考えをまとめる	○			60.5	—	—	0.9	—	—
4 6	目的に応じて複数の資料から必要な情報を読み取り、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く			○	42.4	44.8	—	15.1	18.9	—
4 7	文章の展開に即して内容を理解する	○			69.3	68.1	56.4	0.6	1.0	2.5
4 8	比喩の効果を考えて文章を読み、自分の考えを書く			○	65.9	57.6	53.4	5.4	6.0	10.4
4 9	文章の構成を工夫する	○			81.3	76.2	—	0.6	0.9	—
5 0	資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く			○	67.9	68.5	—	10.3	12.8	—
5 1	表現の仕方に注意して読み、内容について理解する		○		36.1	36.8	38.6	11.3	14.0	16.9
5 2	文章の内容や表現の仕方を捉え、自分の考えを明確に説明する			○	68.3	65.1	64.1	16.6	18.4	20.8

(4) 中学校数学

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
1	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している		○		85.5	84.8	84.2	3.0	3.2	2.8
2	正の数と負の数の四則演算ができる		○		71.0	73.0	73.0	2.0	1.8	1.5
3	単項式や多項式、同類項の意味を理解している		○		79.8	—	—	4.6	—	—
4	文字式の値について理解している	○			58.8	55.5	—	0.6	0.8	—
5	文字に数を代入して式の値を求めることができる		○		90.6	90.6	89.9	4.0	4.4	4.5
6	数量の関係を文字式に表すことができる	○			65.0	62.6	66.6	0.5	0.4	0.3
7	方程式を解く際に用いられている等式の性質を理解している	○			66.1	65.0	64.9	0.8	0.9	0.4
8	一元一次方程式を使って問題を解決する手順を理解している		○		44.4	43.1	39.4	14.4	15.6	16.9
9	一元一次方程式を解くことができる		○		76.5	75.9	76.9	7.5	7.0	6.9
10	具体的な場面で、連立二元一次方程式をつくることできる		○		69.3	69.3	72.2	9.4	9.1	8.9
11	連立二元一次方程式の解の意味を理解している	○			74.9	71.4	72.6	1.0	1.0	0.7
12	基本的な作図の手順を理解している	○			87.6	85.5	87.1	0.9	0.9	0.3
13	図形を平行移動したり、対称移動したり、回転移動したりすることができる		○		84.3	—	—	2.4	—	—
14	空間における直線や平面の位置関係を理解している		○		73.1	—	—	2.2	—	—
15	円錐の見取図と展開図について理解している	○			77.8	79.0	80.6	0.6	0.6	0.6
16	円錐の体積の求め方を理解している	○			69.0	—	—	0.9	—	—
17	証明の根拠として用いられている平行線の性質を理解している	○			85.6	84.2	85.3	0.5	0.6	0.3
18	多角形の内角の和の性質を理解している	○			73.3	73.2	74.2	0.6	0.6	0.3
19	三角形の合同条件を理解している	○			80.2	79.8	82.1	0.5	0.7	0.4
20	平行四辺形になるための条件を理解している	○			44.0	42.3	48.8	1.0	0.8	0.5
21	証明の必要性和意味を理解している	○			38.9	—	—	0.9	—	—

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
2 2	関数関係の意味を理解している	○			52.9	—	—	1.4	—	—
2 3	具体的な事象における比例の関係を理解している	○			64.4	61.3	64.8	0.7	0.7	0.5
2 4	比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる		○		71.3	67.2	60.3	7.8	8.8	11.7
2 5	比例 $y=ax$ について、式とグラフの関係を理解している	○			63.3	62.6	—	0.7	0.8	—
2 6	反比例について、比例定数の意味を理解している	○			54.3	50.9	49.8	0.7	1.0	0.9
2 7	一次関数の式を求めることができる	○			62.6	61.0	57.4	0.9	0.9	0.7
2 8	一次関数のグラフについて理解している	○			62.8	64.0	60.4	0.7	0.6	0.6
2 9	連立二元一次方程式と一次関数のグラフとの関係を理解している	○			59.4	59.2	61.3	1.6	1.6	1.6
3 0	ヒストグラムから資料の傾向を読み取ることができる		○		82.0	76.9	—	1.6	2.3	—
3 1	ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している		○		57.4	45.7	—	2.9	4.8	—
3 2	ヒストグラムについて理解している		○		68.8	62.8	55.0	9.4	12.2	14.6
3 3	相対度数の意味を理解している	○			58.5	54.6	49.8	1.3	1.4	1.2
3 4	確率の意味について理解している	○			33.5	33.0	—	1.2	1.1	—
3 5	簡単な場合について、確率を求めることができる		○		60.7	56.4	56.1	7.9	8.2	8.7
3 6	簡単な場合について、確率を求めることができる		○		38.4	35.5	—	13.0	13.0	—
3 7	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる		○		63.4	59.3	—	2.2	2.5	—
3 8	数学的な結果を事象に即して解釈することができる	○			74.1	69.9	—	0.6	0.8	—
3 9	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			○	34.7	37.0	—	30.2	32.5	—
4 0	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる		○		38.2	—	—	7.4	—	—
4 1	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる			○	7.0	—	—	9.1	—	—
4 2	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる		○		81.3	77.0	—	4.9	6.5	—
4 3	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる			○	50.4	38.9	—	20.8	26.4	—
4 4	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	○			79.1	76.0	—	1.0	1.2	—

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度	令 和 3 年 度	平 成 28 年 度	平 成 25 年 度
45	証明を評価し、その誤りを指摘することができる		○		64.4	65.1	61.0	16.4	16.4	21.8
46	与えられた証明の評価に基づいて、誤った部分を書き直し、証明を改善することができる			○	45.1	48.1	41.7	14.2	14.6	18.7
47	筋道を立てて考え、証明することができる			○	39.9	39.2	—	19.9	20.4	—
48	証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができる	○			51.2	50.5	—	1.3	1.4	—
49	証明の方針を立てることができる		○		13.9	14.1	—	24.9	30.7	—
50	証明する際に根拠となる事柄を筋道を立てて考えることができる	○			73.8	70.4	—	1.4	1.5	—
51	図形の性質を、構想を立てて証明することができる			○	25.2	28.2	—	19.7	20.1	—
52	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる		○		85.7	83.2	—	2.4	3.5	—
53	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			○	44.7	36.3	—	21.9	25.9	—
54	与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができる		○		92.5	92.2	—	3.5	3.5	—
55	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			○	29.9	31.1	—	33.3	37.3	—
56	表やグラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる	○			56.5	57.5	53.6	1.1	1.2	1.8
57	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			○	46.4	35.1	29.6	17.9	19.7	25.9
58	与えられた情報を言葉で表された式に基づいて処理することができる		○		62.4	60.0	—	4.3	5.0	—
59	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる			○	25.9	26.4	—	3.9	4.4	—
60	資料から必要な情報を適切に読み取ることができる		○		92.4	90.0	83.9	3.1	4.6	7.9
61	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			○	43.8	44.6	39.5	4.1	4.4	6.9
62	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる		○		37.6	—	—	12.5	—	—
63	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			○	31.5	—	—	23.9	—	—
64	表から相対度数を求めることができる		○		56.3	49.2	—	19.1	23.3	—
65	不確実な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる			○	27.7	24.9	—	6.8	6.1	—

(5) 中学校英語

●聞くこと、読むこと、書くこと

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)	無解答率(%)
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	令 和 3 年 度
1	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	○			76.8	0.2
2	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	○			59.9	0.2
3	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	○			69.0	0.2
4		○			61.4	0.2
5		○			90.7	0.2
6	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	○			57.9	0.3
7		○			77.5	0.3
8		○			86.6	0.2
9	まとまりのある英語を聞いて、説明の要点を理解することができる	○			42.4	0.3
10	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる	○			82.5	0.3
11		○			77.9	0.3
12	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	○			77.8	0.3
13		○			85.3	0.3
14	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	○			93.1	0.2
15		○			83.5	0.2
16	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる	○			45.0	0.4
17		○			63.2	0.6
18		○			56.7	0.7
19	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる	○			48.5	0.8
20	まとまりのある文章を読んで、説明の大切な部分を理解することができる	○			42.6	1.2
21		○			83.4	0.8

通し 番号	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)	無解答率(%)
		選 択 式	短 答 式	記 述 式	令 和 3 年 度	令 和 3 年 度
22	文の中で適切に接続詞を用いることができる	○			69.3	0.4
23		○			84.7	0.3
24		○			73.8	1.1
25		○			75.9	0.9
26	一般動詞の2人称単数現在形の疑問文を正確に書くことができる		○		32.8	11.2
27	1人称単数未来表現の肯定文を正確に書くことができる		○		32.7	6.9
28	1人称単数過去進行形の肯定文を正確に書くことができる		○		27.2	8.9
29	一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができる		○		19.6	11.6
30	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在形の肯定文を正確に書くことができる		○		78.8	8.1
31			○		47.8	7.6
32	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在形の否定文を正確に書くことができる		○		36.7	9.8
33	与えられたテーマについて文を書くことができる			○	54.1	12.9
34				○	57.9	9.2
35	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる			○	34.6	16.1

●話すこと

通し 番号	出題の趣旨	問題形式		正答率(%)	無解答率(%)
		短 答 口 述 式	口 述 式	令 和 3 年 度	令 和 3 年 度
36	時刻に関する基本的な表現を理解して、応答することができる	○		43.8	10.6
37	位置に関する基本的な表現を理解して、応答することができる	○		58.6	7.6
38		○		45.1	7.9
39	基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することができる	○		41.7	15.1
40	数に関する基本的な表現を理解して、応答することができる	○		63.1	16.1
41	聞いて把握した内容について、やり取りすることができる		○	4.7	30.4
42			○	2.3	28.0
43	与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる		○	10.8	15.6
44			○	21.2	10.8

6. 各教科の問題例

【問題例の見方】

調査問題を縮小して掲載しています。

出題の趣旨
問題ごとに出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

解答類型と反応率
解答類型ごとの反応率、正答の条件、正答例を示しています。
(詳細は下欄参照)

分析結果と課題
過去の出題時からの正答率の変化や、その要因等について記述しています。
(詳細は下欄参照)

※図はイメージです。

教科名 ○○○○

問題画像

出題の趣旨

.....

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)			正答
		R3年度	H28年度	H25年度	
<input checked="" type="checkbox"/> 1	◎
2
3
4
9	上記以外の解答
0	無解答

分析結果と課題

○

○

(例)

解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。反応率は、全体の児童生徒数に占める、各解答類型に該当する児童生徒数の割合をパーセントで示したものです。

<正答>

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

「○」…問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

分析結果と課題

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- ・過去の出題時からの正答率の変化
- ・正答率が変化した要因についての分析
- ・解答の状況についての分析

小学校国語 25・26 表をもとに話し合う（家での勉強の進め方）

六年生の山中さんの学級では、家での勉強の進め方について調べて、話し合うことになりました。次は、山中さんのグループが集めた「資料」をもとにした、「話し合いの様子の一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

〔資料〕家で、自分で計画を立てて勉強をしている小学六年生の割合

	している	どちらかといえぼしている	あまりしていない	全くしていない	その他	無回答
平成20年	22%	30%	33%	15%	0%	0%
平成24年	25%	33%	30%	12%	0%	0%

〔文部科学省 国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査【小学校】報告書】による。〕

司会 山中さんたちが、最近の小学六年生の家での勉強の様子について参考になる「資料」を用意してくれました。それでは、話し合いを始めます。まず、「資料」を見て分かったことや考えたことを発表してください。

山中 平成二十年を見ると、「している」人が少ないと思います。自分で計画を立てることで、積極的に勉強に向かうことができるようになると思います。六年生なので、もっと自覚をもって取り組むべきではないでしょうか。

上野 確かに、平成二十年の「している」は、二十二%しかいません。でも、「どちらかといえぼしている」を合わせると、五十二%もいます。半分をこえているので、取り組んでいるほうだと思います。

司会 今、二人は、平成二十年の割合に注目して考えた意見を出してくれましたが、平成二十四年の割合からも考えてみてください。

白石 わたしは、平成二十四年の「している」と「どちらかといえぼしている」に注目しました。この二つを合わせると、五十八%になります。「資料」の見方として、「している」「していない」の二つをまとめて考えた場合、「している」の割合のほうが、平成二十年・二十四年も大きくなっています。しかも、この割合については、平成二十年よりも平成二十四年のほうが上回っているので、よく取り組んでいるとはいってもよいのではないのでしょうか。

あなたの発表

ア

（話し合いが続く）

話し合いで出された意見を、次の□の中にある二つに分けます。「山中・上野・白石」の三人は、それぞれA・Bのどちらの意見になりますか。□の中に、それぞれAかBのどちらか適切なほうを選んで書きましょう。

A 最近の小学六年生は、家で、自分で計画を立てて勉強をするように取り組んでいるという意見

B 最近の小学六年生は、家で、自分で計画を立てて勉強をするにあまり取り組んでいないという意見

※解答は、解答用紙に書きましょう。

山中 □

上野 □

白石 □

あなたは、「話し合いの様子の一部」の□のところで、25の問題の□にある、Bの意見の立場から発表することにしました。あなたならどのような内容を発表しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

- （条件）
- 平成二十四年の割合を取り上げること。（割合については、「%」と表記してもよい。）
 - 六十字以上、八十字以内にまとめ、発表するように書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。どちらの行を答えなくて、続けて書きましょう。

80字 60字

出題の趣旨

互いの立場や意図を明確にして話し合うことができるかどうかをみる。

25

趣旨

話し手の立場や意図を捉えて聞くことができるかどうかをみる。

解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)			正答
			R3年度	H28年度	H25年度	
25	1	山中さんにB, 上野さんにA, 白石さんにAを解答しているもの	83.0	82.0	84.9	◎
	2	山中さんにB, 上野さんにA, 白石さんにA以外を解答しているもの	2.2	2.1	2.0	
	3	山中さんにB, 上野さんにA以外, 白石さんにAを解答しているもの	3.7	3.8	2.8	
	4	山中さんにB以外, 上野さんにA, 白石さんにAを解答しているもの	1.2	1.3	1.3	
	5	山中さんにB, 上野さんにA以外, 白石さんにA以外を解答しているもの	0.1	0.1	0.1	
	6	山中さんにB以外, 上野さんにA, 白石さんにA以外を解答しているもの	2.2	2.8	2.5	
	7	山中さんにB以外, 上野さんにA以外, 白石さんにAを解答しているもの	3.9	4.2	3.6	
	8	山中さんにA, 上野さんにB, 白石さんにBを解答しているもの	1.5	1.6	1.3	
	9	上記以外の解答	0.8	0.9	0.7	
	0	無解答	1.4	1.1	0.8	

分析結果と課題

- 本設問は、今回の調査で3回目の出題である。3回の調査結果を概観すると、引き続き、相当数の児童ができています。
- 自分の立場を明確に述べている文末表現や、考えの根拠となった数値の挙げ方から話し手の立場を理解することができたと考えられる。

26

趣旨

自分の立場や意図を明確にして話すことができるかどうかをみる。

解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反応率 (%)			正答
		R3年度	H28年度	H25年度	
26	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 最近の小学6年生は、家で、自分で計画を立てて勉強をすることにあまり取り組んでいないという立場で書いている。 ② 平成24年の割合 (%) を取り上げている。 ③ 60字以上、80字以内で書いている。				
	(正答例) ・ 平成二十四年の「あまりしていない」は三十%いて、「全くしていない」の十二%も合わせると、四十二%にもなります。だから、あまり取り組んでいないと思います。(77字)				
	1 条件①, ②, ③を満たしているもの	37.4	35.3	35.9	◎
	2 条件①, ②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.5	0.2	0.3	
	3 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	22.3	20.7	24.0	
	4 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	17.1	18.4	16.5	
	9 上記以外の解答	15.7	17.7	15.9	
0 無解答	7.0	7.7	7.4		

分析結果と課題

- 本設問は、今回の調査で3回目の出題である。3回の調査結果を概観すると、引き続き、自分の立場や意図を明確にして話すことに課題がある。

- 解答類型3の反応率は22.3%である。具体的な解答例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 平成二十四年を見ると、「している」人より、「あまりしていない」人の方が多いので、自分でしっかり計画を立てて、積極的に勉強を行ったほうが良いと思います。(75字)
- ・ ぼくは積極的に取り組んでいないと思います。なぜかという、している人やどちらかといえばしている人は上がったのですが、少ししか、上がっていないからです。(75字)

このように解答した児童は、平成24年の割合(%)を取り上げて書くことができていない。このことから、自分の立場を明確にして述べることはできているが、具体的な数値を根拠として述べることができていないと考えられる。

- 解答類型4の反応率は17.1%である。具体的な解答例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 平成二十四年は自分で計画を立てて勉強している人が二十五%いて、平成二十年に比べて上がっています。だから自分で計画を立てて勉強をしている人が増えていると思います。(80字)
- ・ ぼくは、「している」と「どちらかといえばしている」のわり合が、平成二十四年は五十八%で、平成二十年より増えているのでよく取り組んでいると思います。(73字)

このように解答した児童は、「最近の小学六年生は、家で、自分で計画を立てて勉強をすることにあまり取り組んでいない」という立場から書くことができていない。このことから、具体的な数値を根拠として述べることはできているが、「あまり取り組んでいない」という立場から述べることを捉えた上で、自分の立場を明確にして述べることができていないと考えられる。

- 解答類型9の反応率は15.7%である。具体的な解答例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 平成二十四年を見ると「している」という人が少ないと思う。自分で計画を立てることで積極的に向かうことができると思う。6年生なので自覚をもって取り組むべきだと思う。(80字)
- ・ 確かに平成二十年より二十四年の方が「している」が増え、「していない」が減りました。きちんと計画を立て取り組んでいるとあってよいと思います。どうでしょう。(78字)

このように解答した児童は、「最近の小学六年生は、家で、自分で計画を立てて勉強をすることにあまり取り組んでいない」という立場から、平成24年の割合(%)を取り上げて書くことができていない。この中には、「最近の小学校六年生は、家で、自分で計画を立てて勉強をすることによく取り組んでいる」という立場から述べた解答や、立場を明確にできていない解答が見られた。このことから、「あまり取り組んでいない」という立場から述べることを捉えた上で、自分の立場を明確にして話すことができず、具体的な数値を根拠として

話すこともできていないと考えられる。

これらの背景として、話合いの展開を踏まえ、互いの立場や意図を明確にした上で、数値などの根拠を挙げて意見を述べることができていない状況があると考えられる。また、具体的な数値などの根拠を挙げることで、説得力を高めることができるなどの効果があることを理解していない状況があると考えられる。

小学校算数 3 四則計算

次の計算をしましょう。

$4 \div 5$ (わりきれぬまで計算して、商を小数で書きましょう。)

出題の趣旨

(整数) \div (整数) で商が小数になる計算をすることができるかどうかをみる。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)			正答	
		R3年度	H28年度	H25年度		
3	1	0.8 と解答しているもの	91.0	91.4	92.1	◎
	2	8 と解答しているもの	1.9	2.5	2.1	
	3	1.25 と解答しているもの	1.5	1.5	1.5	
	4	$\frac{4}{5}$ と解答しているもの	0.2	0.1	0.3	
	5	$\frac{5}{4}$ と解答しているもの	0.0	0.0	0.0	
	6	12.5 と解答しているもの	1.2	1.0	0.8	
		125 と解答しているもの				
	7	0あまり4 と解答しているもの	0.0	0.0	0.0	
	9	上記以外の解答	2.9	2.2	2.3	
	0	無解答	1.3	1.2	0.9	

分析結果と課題

- 本設問は、今回の調査で3回目の出題である。3回の調査の正答率を概観すると、引き続き、相当数の児童ができています。
- 解答類型2の反応率は1.9%である。
 このように解答した児童は、 $4 \div 5$ の計算では、被除数の4は0.1を単位とするとその40個分であるから、 $4 \div 5$ を $40 \div 5$ として考えることはできているが、 $40 \div 5$ から $4 \div 5$ の商を考える際に、 $4 \div 5$ の商を0.1が8個分と捉えることはできていないと考えられる。
- 解答類型3の反応率は1.5%である。
 このように解答した児童は、 $4 \div 5$ の筆算をする際に、除数と被除数を逆にして、 $5 \div 4$ の筆算をしていると考えられる。

中学校国語 33 敬語の使い方

次の文章の——線部①から③までのうち、敬語の使い方が不適切なものが一つあります。その番号を選び、意味を変えずに適切な敬語に書き直しなさい。

六月三日、本校の卒業生の方が講演会のために①うかがってくださいました。私たちは、講演会で、卒業生の方から仕事のやりがいや心構えについていろいろなお話をお聞きしました。卒業生の方が③お話しになった内容は、私たちに②とって将来のことを考えるきっかけとなる貴重なものでした。

出題の趣旨

敬語の働きについて理解しているかどうかをみる。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)			正答
		R3年度	H28年度	H25年度	
33	1 不適切なものとして①を選択し、「いらっしゃいました」などと適切な敬語に書き直しているもの	55.7	52.1	/	◎
	2 不適切なものとして①を選択し、適切な敬語に書き直していないもの	12.1	15.2		
	3 不適切なものとして②を選択しているもの	8.3	11.3		
	4 不適切なものとして③を選択しているもの	21.6	18.0		
	9 上記以外の解答	0.1	0.2		
	0 無解答	2.1	3.2		

分析結果と課題

- 本設問は、今回の調査で2回目の出題である。2回の調査結果を概観すると、引き続き、相手や場に応じて敬語を適切に用いることに課題がある。
- 解答類型2の反応率は12.1%である。具体的な解答例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ おうかがいになりました。

このように解答した生徒は、尊敬語と謙譲語を区別して適切に用いることができていない。

- 解答類型3の反応率は8.3%である。このように解答した生徒は、相手や場に応じて適切に謙譲語を用いることについて理解できていない。
- 解答類型4の反応率は21.6%である。このように解答した生徒は、相手や場に応じて適切に尊敬語を用いることについて理解できていない。

中学校数学24 比例

下の表は、 y が x に比例する関係を表したものです。 y を x の式で表しなさい。

x	…	-2	-1	0	1	2	…
y	…	-6	-3	0	3	6	…

出題の趣旨

比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができるかどうかをみる。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)			正答	
		R3年度	H28年度	H25年度		
24	1	($y =$) $3x$ と解答しているもの。	71.3	67.2	60.3	◎
	2	上記1以外で、比例の式を解答しているもの。	6.8	6.3	7.2	
	3	一次関数の式を解答しているもののうち、変化の割合を3と解答しているもの。	1.2	1.6	1.5	
	4	一次関数の式を解答しているもののうち、切片を3と解答しているもの。	2.5	3.4	3.3	
	5	上記以外で、一次関数の式を解答しているもの。	3.8	4.1	4.0	
	6	反比例の式を解答しているもの。	0.9	1.5	0.4	
	9	上記以外の解答	5.7	7.1	11.7	
	0	無解答	7.8	8.8	11.7	

分析結果と課題

- 本設問は、今回の調査で3回目の出題である。3回の調査結果を概観すると、比例の表から変化や対応の特徴を捉え、 x と y の関係を $y = ax$ の式で表すことに改善の傾向が見られる。
- 解答類型2の反応率は6.8%である。このように解答した生徒は、 y が x に比例すると捉え、 $y = ax$ の形で解答しているものの、 $a = 3$ と捉えることができなかったと考えられる。
- 解答類型3, 4, 5の反応率を合わせると7.5%である。このように解答した生徒は、 y が x に比例すると捉えることができず、 $y = ax + b$ の形で解答したと考えられる。

中学校英語 35 まとまりのある文章を書く

ニュージーランド人の友人に、メールで日本のおすすめの季節について尋ねられました。あなたはそのメールに返信します。4つの季節のうち、あなたのおすすめの季節とその理由を25語以上の英語で書きなさい。

※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (, や ? など) は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

※ 下の枠は、下書きに使っても構いません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

From	(あなたの名前)
To	〇〇
Subject	Re: Question about Japan
Dear 〇〇,	
Thank you for your email.	
<div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div>	
I'm looking forward to seeing you in Japan.	
Your Friend,	
(あなたの名前)	

出題の趣旨

与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反応率(%)	正答
		R3年度	
35	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① おすすめの季節を1つ選んで書いている。 ② 選んだ理由等について書いている。 ③ 25語以上の英語で書いている。		
	1 条件①, ②, ③を満たし, 正確な英語(語や文法事項等の誤りが ない)で解答しているもの (正答例) ・I think spring is the best season for you. In Japan, you can see cherry blossoms in the park in April. They are very beautiful. How about going to see them together? [32 words]	0.9	◎
	2 条件①, ②, ③を満たし, おおむね正確な英語(コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りが ない)で解答しているもの (正答例) ・How about coming Japan in fall? The color of leafs are very beautiful. Let's see it. My father will take you to the mountain by car. [26 words]	33.7	○
	3 条件①, ②, ③を満たして解答しているが, おすすめの理由に一貫 性が感じられないもの(コミュニケーションに支障をきたすような 語や文法事項等の誤りが無いものを含む)	0.0	
	4 条件①, ②, ③を満たして解答しているが, コミュニケーショ ンに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	11.5	
	5 条件①, ③を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	14.6	
	6 条件②, ③を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	0.3	
	7 条件③を満たし, 条件①, ②を満たさないで解答しているもの	0.7	
	8 条件③を満たさないで解答しているもの	21.9	
	9 上記以外の解答	0.3	
0 無解答	16.1		

分析結果と課題

○ 正答率は34.6%であり, 与えられたテーマについて考えを整理し, 文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに課題がある。

しかしながら, 解答類型1~7の反応率の合計は61.7%であり, 全体の6割以上の生徒が25語以上の文章を書くことができしており, 自分の考えを何とか伝えようとする意欲が見られた。基本的な語や文法事項等を正しく理解して文を書くことに課題があるために正答には至らなかったが, これらの確かな定着を図り, コミュニケーションに支障をきたすような誤りを修正することで, 改善が図られていくものと考ええる。

- 解答類型 8 の反応率は21.9%である。具体的な解答例としては、以下のようなものがある。

(例)

・ I recomend you is Spring. Because [6 words]

このように解答した生徒は、25語以上のまとまりのある文章を書くことへの習熟が十分でなく、自分の考えを表現するための基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

- 解答類型 0 の反応率は16.1%である。おすすめする季節やその理由が思い浮かばないか、書きたいことはあっても基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないため、解答することができていないと考えられる。

- 解答類型 5 の反応率は14.6%である。具体的な解答例としては、以下のようなものがある。

(例)

・ My favorite season is summer. Summer is the best season. I can swim in the sea with my family and I can eat an ice cream then. [27 words]

このように解答した生徒は、選んだ季節について書くことはできているが、理由について自分の好みなどを伝えるのみで、ニュージーランド人の友人におすすめするという目的を踏まえ、客観的に表現することができていないと考えられる。

- 解答類型 4 の反応率は11.5%である。具体的な解答例としては、以下のようなものがある。

(例)

・ I like the best season summer. Summer is swimming sea and eat *kakigori*. I visit sea with you. I like food *kakigori*. You can very enjoy. [26 words]

このように解答した生徒は、選んだ季節と理由等について25語以上の英語で書いているが、コミュニケーションに支障をきたすような誤りがあり、正しく文章を書くことができていない。基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないため、書きたいことはあっても正しく書き表すことができていないと考えられる。